

うみたまごへ外出レクに行きました 老健めいわ



6月27日(水)、7月4日(水)、7月11日(水)と3回に分けて、老健めいわではうみたまごへの外出レクを行いました。

老健めいわ 夏のイベント!

まだ梅雨も明けず、3日とも天気恵まれません。当日、ご家族にも協力いただき、参加者様が多かったです。お天気に恵まれました。活になつて、ずっと外出ができていなかったので、本当にうれしかったです。大変喜ばれている姿が伺えました。普段、車椅子で生活をされている方も、イルカショーの時間では、立って観賞する方もいらっしゃいました。自然とリハビリが行える！と、職員も大変刺激を受けました。今回は、昼食の時間を避けての外出でしたが、海を見ながらご飯を食べたら、最高の気分でした。今後は、もっと企画していきたいです！



活になつて、ずっと外出ができていなかったので、本当にうれしかったです。大変喜ばれている姿が伺えました。普段、車椅子で生活をされている方も、イルカショーの時間では、立って観賞する方もいらっしゃいました。自然とリハビリが行える！と、職員も大変刺激を受けました。今回は、昼食の時間を避けての外出でしたが、海を見ながらご飯を食べたら、最高の気分でした。今後は、もっと企画していきたいです！



ショーの迫りに思わず身を乗り出しました

明和新聞

第52号
~夏号~



夏を楽しむレシピ



山形の郷土料理 『だし』

材料 / 2人分 (1人分 17kcal)

きゅうり	中 1/2本
茄子	小 1/3本
青唐辛子	1/2本
みょうが	1/2個
大葉	2本
こねぎ	3本
生姜	3g
刻み昆布	3g
醤油	大さじ1と1/2
出汁	大さじ1と1/2
かつおぶし	適量



「だし」とは、茄子、きゅうり、みょうが、大葉などを細かく刻んで、醤油とかつお節で味付けした山形県の郷土料理です。簡単に美味しく、たっぷりの野菜がとれる「だし」は、食欲が落ちやすい夏にもぴったりの一品です。山形ではがごめ昆布というとても粘りのある昆布を使います。手に入れば、がごめ昆布を使って作ってみてください。

作り方

きゅうり、茄子、青唐辛子、みょうが、大葉は粗みじん切り、こねぎは小口切りに、生姜はみじん切りにする。
茄子と大葉は水につけてアクを抜き、ザルにあけて水気を切っておく。
醤油と出汁を合わせたものに刻み昆布をいれ、水気を吸わせる。
~ を全て合わせて器に盛り、かつおぶしを飾ってできあがり

医療法人ライフサポート 明和記念病院 医療療養型病床



老健めいわ
通所リハビリテーション
訪問看護ステーションめいわ
めいわ訪問看護リハビリステーション種田

訪問リハビリテーション
めいわ訪問入浴サービスセンター
めいわ在宅サービスセンター



〒870-0165
大分市明野北1丁目2番17号
☎ 097-573-1000
FAX 097-573-1003
<http://www.meiwa-hp.jp/>

第5回 明和フォーラムを開催しました

平成30年6月17日、大分県総合社会福祉会館にて来場者、職員合計123名が参加し、基調口演、実演、4題の研究発表を行いました。

基調口演 必要とされる喜び

佐伯市宇目鷹鳥屋神社宮司で、県南落語組合会長でもある矢野大和氏をお招きし、「必要とされる喜び」と題して基調口演をして頂きました。

「講演」ではなく、「口で演じる話芸」という意味を持つ「口演」では、ご自身の家族の話から社会問題まで幅広い話題を取り上げていました。矢野氏による言葉巧みな話術に会場からは何度も笑い声上がる一方、含蓄のある一つ一つの言葉に深く共感し頷く姿も見受けられ、大いに盛り上がりました。

この口演を通じて、私達の医療・介護・福祉の仕事は生涯『必要とされる仕事』そしてそれは『とてもありがたいこと』であると改めて感じることが出来ました。

とても素晴らしい基調口演でありがとうございました。



小児訪問リハビリへの取り組み

めいわ訪問看護リハビリステーション植田は、平成29年より開始した小児に対する訪問リハビリについて、最初に介入した症例を挙げての症例報告を行いました。

この症例では、ポジションニングなどの身体的なアプローチに加えて、療育に対する母親の悩みを傾聴し、療育指導を行うことが重要であったと報告しました。

また、小児に対する支援経験が無かった当事業所が目標を達成できたのは、主治医・小児コメディネーター・療育センターと定期的に情報共有や目標設定を行ない、チームとして介入できたことが大きかったと述べました。

この発表を通して小児分野におけるチーム医療の重要性や家族への支援の必要性を強く感じました。また、本発表の質疑応答では活発な意見交換が行われ、参加者の小児分野に対する関心の高さが窺えました。

実演

湯気の向こうに温かさを

めいわ訪問入浴サービスセンターは訪問入浴の実演を行いました。

法人グループ内のサービスでありながら、実際にどのようなことをしているのかよく分からない、という職員も多くいることもあり、来場頂いたお客様だけでなく職員も大変興味深く実演を見ていました。

持ち運び可能な浴槽をベッドのすぐ隣に設置し、給湯や排水の準備から、ご利用者を安全に移乗し洗体する様子を実演していましたが、全ての動作が流れるようにスムーズに行われており、職員の熟練度が分かるものでした。

最後に実際のご利用者からの手紙が紹介され、湯に浸かる楽しみだけでなく、入浴中の職員との会話も楽しみにしているという内容が発表されました。



通所リハビリテーションにおける認知症予防事業の取り組み

通所リハビリテーションは「通所リハビリテーションにおける認知症予防事業の取り組み」について発表をしました。

平成37年には65歳以上の方の5人に1人が認知症高齢者になると言われており、平成29年8月より当院通所リハビリで認知症予防事業の一つとして学習療法を導入しました。

学習療法がどのような取り組みなのか、大変分かり易い発表でした。外部から傍聴に来られていた方も感銘を受け、ご自身もこの取り組みに参加したいという感想を述べられていました。

学習療法を行うことで「会話が增えた」、「不穏行動が減った」など日常生活での変化や、新しい発見など改善場面も紹介され、職員も大変興味が高まりました。

ラウンドチェックを見直し、

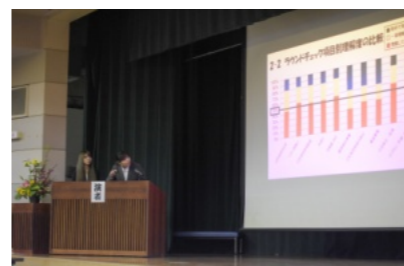
感染予防に対する意識を高める取り組み

感染対策委員会からは、年2回のラウンドチェック実施、感染症を予防する体制づくりと現場の把握、指導の結果が報告されました。

まず、ラウンドチェックについて見直しを行った結果、問題点が挙がったため改善を行いました。また職員の感染への意識調査を行うため、アンケートを実施したとのことでした。

その結果として、より効率的なラウンドチェックの実施、及び職員の意識改善へと繋げることが出来たという報告がありました。

今後ラウンドチェックを身近なものとして定着させ、職員一人一人の感染対策に対する知識、意識、行動を高める事で、病院全体の感染対策の底上げにつながることを参加した職員に意識付けすることができました。



ふせげ！ パスのスーパーパス！

老健めいわは、今年4月より在宅復帰機能「超強化型」を算定しています。どのようにして高い在宅復帰率を維持できるようになったのか、その取り組みについて発表がありました。

在宅へスムーズに退所できるよう、3年前から施設独自のクリティカルパスを作成していました。しかし十分に活用できていない現状があったため、改善に向けた取り組みを行いました。

パスの理解を深めるための再研修、多職種が集まったカンファレンス、パス自体の見直しなどを行うことで意見交換が活発になり、目標設定やより細やかな支援内容について話し合うことができるようになったとのことでした。

その結果、入所者様ご家族、職員の皆が同じ目標に向かって協力できる体制が作られ、自然と高い在宅復帰率を維持できるようになったという発表でした。